

## 今冬期の水温状況について

長崎県総合水産試験場  
 漁業資源部 海洋資源科

昨年末からの例年にない暖冬が続く中、漁模様に変化がみられています。

橘湾では、例年秋から漁獲されるカタクチイワシの春生まれ群が1月に入ってようやくまとまって漁獲されました。

また五島海域ではミズイカ（アオリイカ）の漁獲が年末まで続き、平年を上回る水揚げがありました。これらは秋以降の水温低下の遅れが大きな要因だと考えられます。

そこで、今回は、五島灘と五島西沖における最近の表層水温（10m水深）状況について紹介します。

### 五島灘及び五島西沖の水温について

平成17年124号の「漁連だより」で、夏季の水温は概ね平成5年以降、冬季の水温は昭和61年以降、高めで推移していたことを報告しました。

平成18年の水温は、五島灘・五島西沖共に、4月までは平年（昭和32年から平成17年までの平均値）並みで推移しましたが、6月は五島灘では平年に比べ1.4低め、五島西沖では平年に比べ2.0低めで推移しました。

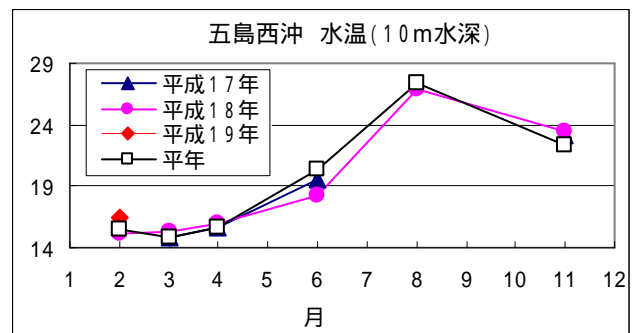
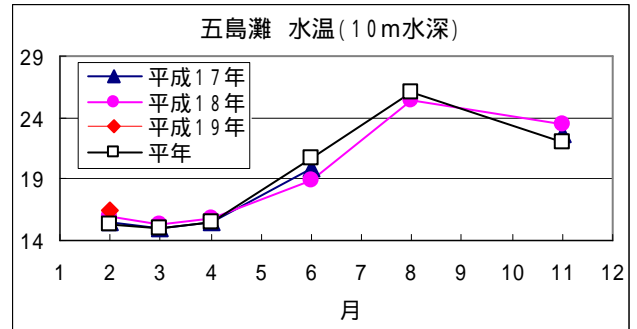
これは、寒気の流れ込みにより気温が下がったことが原因であると考えられます。

また8月は、五島灘・五島西沖共に、気温は高かったものの、長雨の影響で水温は平年並みで推移しました。

しかしながら、秋以降、水温は高め傾向となり、11月は五島灘では平年に比べ1.4高く、五島西沖では、平年に比べ1.5高く推移しました。

また、2月になっても五島灘は平年に比べ、1.3高く、五島西沖は平年に比べ、1.0高くなっています。特に福江島の南では、17.6で、平年に比べ1.6高い状況でした。

このような水温の低下が遅れた原因の一つとしては、秋から冬にかけて気温が高かったことが考えられます。



### 五島灘・五島西沖における水温の月別変化（10m水深）

本県海域の海洋環境は、陸水、対馬暖流、大陸沿岸水の影響に加え、比較的浅い大陸棚域であるために気温の影響も大きく受けます。

このため、秋以降の例年にない暖かい気候の影響により水温の低下が遅れ、高めで推移していると考えられます。

現在の暖冬の要因の一つとして、昨年9月から始まったエルニーニョ現象が言われていますが、今回のエルニーニョ現象は春には終息すると予測されており、水温の高め傾向はもう暫く続きそうです。

### 海洋観測とモニタリング

水温などの海洋環境は、魚介類の生息分布、移動・回遊等に大きく影響することから、今後も海況の把握に努めると共に、的確な漁海況予報に努めたいと考えています。

（主任研究員 高木 信夫）